様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月１５日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５２０２０２
研究課題名（和文）　源氏物語の注釈史における儒教的仏教的言説の研究

研究課題名（英文）A study of the statements related to Confucianism and Buddhism in the history of critical notes on *The Tale of Genji*

研究代表者
日向　一雅（HINATA KAZUMASA）
明治大学・研究・知財戦略機構・客員研究員
研究者番号：９００７９４２６

研究成果の概要（和文）：源氏物語の研究は大きく本文研究、作品論研究、注釈史・享受史研究に分けられるが、本研究では源氏物語の中世近世の注釈史・享受史における儒教的仏教的言説を対象として、その歴史的背景を明らかにするとともに、それが源氏物語の主題や作品論に深く関わることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Studies on *The Tale of Genji* can be roughly divided into three types：textual criticism、theoretical studies, and research on the history of both the novel’s reception and the critical notes written about it. This study focuses on statements related to Confucianism and Buddhism in the notes and the novel’s reception from medieval times to early modern times. This study analyzes the historical background of *The Tale of Genji* and shows clearly its relationship with both the novel’s theme and theoretical studies of the novel.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１１年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１２年度	800,000	240,000	1,040,000
総　計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：源氏物語

１．研究開始当初の背景
（１）源氏物語の注釈史、享受史研究は和歌受容や後世の歌壇、歌人への影響、注釈書成立の諸問題が主流であった。
（２）また新しい享受史研究として、源氏絵研究が盛行を見せる。
（３）源氏物語の作品理解は、中世以来、延喜天暦準拠説、儒教的な諷喩教戒説、仏教的立場からの作者観音化身説、紫式部堕地獄説などが有名であるが、本研究では儒教的仏教的理解に注目して、中世近世の注釈史、享受史を見直すこととした。これは従来の研究の欠を補うものである。

２．研究の目的
（１）源氏物語の中世近世における儒教的仏教的注釈・評論言説は、その時代における主題論的把握を示すものである。そのような注釈・評論言説の展開を整理するとともに、特に近世における源氏物語の享受層の拡大、多様な流布形態の中で、その受容意識を探る。
（２）注釈史、享受史における儒教的仏教的言説が源氏物語の構造と関わる点を明らかにし、主題論的作品論研究を行う。

３．研究の方法
（１）代表的な中世近世の古注釈と新注を対象にして、儒教的仏教的注釈言説を調査し、注釈史の展開を確認する。
（２）特に近世の享受資料については、武家や儒者・知識人層による源氏物語言説を幅広く調査する。これは従来ほとんど手が付けられてない。
（３）注釈書の指摘を基にしながら、儒教的仏教的言説が源氏物語の構造に関わる主題的意味を有すると考えられる場合には、作品論的考察を行う。

４．研究成果
（１）『河海抄』（１３６２）は源氏物語について、「誠に君臣の交、仁義の道、好色の媒、菩提の縁にいたるまで、これをのせずといふことなし」と論じたが、そうした源氏物語観は『岷江入楚』（１５９８）に至るまで中世源氏論を特色づける。源氏物語が「男女の道」の物語であることは「王道治世の始たるにかたどれり」（『岷江入楚』）とも評された。このような政教主義的文学論が源氏物語とどのようにかかわるのか。
　源氏物語の「蛍」巻の物語論について、これが勅撰漢詩集、『古今集』以来の政教主義的文学論の一面を強固に有することを確認できるとしたのが、［図書］⑦の論文である。
（２）同様に、源氏物語六条院四季の町の自然表現について、これが太政大臣の体現する徳の一つ、「陰陽燮理」を示すと指摘したのが『岷江入楚』である。そうした自然表現の文学史上の先例が『古今集』四季の部立であり、それは政教主義的文学観によっていた。六条院四季の町の自然表現は『古今集』四季の部立の思想を継承する。―［図書］⑨論文。
（３）「賢木」「須磨」「明石」「澪標」巻には周公旦と『尚書』の引用が見られる。これらの注も『光源氏物語抄』『紫明抄』『河海抄』と中世古注釈において確認が進んだものである。これが断章取義の引用にとどまらず、光源氏の人物造型の基本に関わることを明らかにした。―［図書］④論文。
（４）源氏物語に白居易の数多くの詩文が引用されることは、中世古注釈書がつぶさに指摘した。その白居易の詩文を通して、平安朝の文人貴族は儒家的思想、理念を把握したと論じたのが、［雑誌］③、［図書］⑥の論文である。古注釈書の儒教的注釈も『尚書』『礼記』等の儒教経典に直接拠るのではなく白居易詩文を介していると推定する。
　［図書］⑥では、村上朝の菅原文時「意見封事三箇条」が白居易の「翰林制詔」の「擬制」文に倣うものであることを明らかにする。［雑誌］③では、一条朝の惟宗允亮『政事要略』に『白氏文集』の「策林」「判」等が引用される点に注目して、官僚にとって白氏諸篇は文書作成の実務上の必要や政治理念を示す上で尊重されたことを確認する。
　これらの指摘は詩篇中心に理解されがちな白居易受容が、官僚としての白居易の活動やその思想にまで広げて、より深く広く受容されていたことを明らかにした。
（５）仏教的言説に関わっては、『過去現在因果経』の仏伝の構造と光源氏の人生との対比をおこない、源氏物語の内面性や宗教性にこうした経典との深い関わりを論じた。―［図書］④
（６）源氏物語には法華八講が九例語られるが、藤壺中宮が桐壺院の一周忌に催した法華八講の意味を考察したのが、［図書］①である。９～１１世紀初頭の、女性が願主になり、あるいはその対象者になった法華八講の史実と対比して、女性の置かれた現実に対する源氏物語の厳しい眼差しを論じる。
（７）その他、源氏物語と密接な関わりのある白居易「長恨歌」「琵琶行」の本文と訓読、唐代伝奇『鶯鶯伝』、琴曲「広陵散」の影響関係など、中国文学との関わりを広く検討した。―［雑誌］②④、［図書］⑧、［雑誌］①など。
（８）資料調査として、「源氏物語についての近世儒教言説資料集」をまとめた。『明治大学古代学研究所紀要』１８号（２０１３年）掲載。
（９）資料紹介として、「湯浅兼道筆『源氏物語聞録』「花宴」」、同「葵」の翻刻は、『明治大学古代学研究所紀要』１６号（２０１２年）、１８号に掲載。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

① 日向一雅、「光源氏が弾いた広陵散とはどのような曲か・再考」紫式部学会『むらさき』49 輯、査読有、2012 年 12 月、pp. 49―52
② 袴田光康、西野入篤男「金沢文庫本「琵琶引」の本文と訓読」、『白居易研究年報』13 号、査読有、勉誠出版、2012 年 12 月、pp. 192―215
③ 長瀬由美、「一条朝の文人貴族と惟宗允亮―源為憲詩を起点として―」、都留文科大学『国文学論考』第 48 号、査読有、2012 年 3 月、pp. 130―140

④ 袴田光康、「金沢文庫「長恨歌」の本文と訓読（訓読篇）」『白居易研究年報』12 号、査読有、勉誠出版、2011 年、pp. 110—183

⑤ 日向一雅、「大和物語「蘆刈」譚の源流と展開再説」『日本古代学』三、明治大学古代学教育・研究センター、査読有、2011 年 3 月、pp. 97—107

⑥ 日向一雅、「『本事詩』の注釈と平安鎌倉文学における『本事詩』受容の研究」、『明治大学人文科学研究所紀要』69、査読有、 2011 年 3 月、pp. 13—46

〔学会発表〕（計１０件）

① 長瀬由美、「大江匡衡熱田宮祭文」、『朝野群載』研究会（後藤昭雄主催）、於成城大学、2012 年 12 月 22 日

② 日向一雅、「平安文学と『鶯鶯伝』」、2012年日本語教育と日本学研究国際シンポジウム、於上海・同済大学、2012 年 6 月 9 日

③ 日向一雅、「光源氏と周公旦—中世源氏注釈書の『尚書』言説—」、国際学術研究会「国際的日本古代学の展開—交響する古代—」、於明治大学、2012 年 3 月 21 日

④ 日向一雅、「平安文学の自然表現をめぐって—政教主義的文学論の観点から—」、中国人民大学東亜日本語文学文化国際研討会、於北京・中国人民大学、2011 年 10 月 16 日

⑤ 袴田光康、「平安仏教における新羅明神」、2011年度東アジア文化交流国際学術大会、於ソウル・延世大学校、2011 年 7 月 30 日

⑥ 日向一雅、「平安文学における漢籍受容について—源氏物語を中心に—」、中日民族文化比較研究学術研討会、於北京・中央民族大学、2011 年 7 月 9 日

⑦ 袴田光康、「平安仏教における外来神」、東亜文化研究國際学術研討会、於中国・南通大学、2011 年 2 月 17 日

⑧ 日向一雅、「古代仏教説話の流伝と変容」、東亜文化研究国際学術研討会、於中国・南通大学、2011 年 2 月 16 日

⑨ 日向一雅、「日本古典文学に見る生態思想」、第四回韓国学国際学術大会、於韓国・啓明大学校、2010 年 10 月 21 日

⑩ 日向一雅、「源氏物語と唐代伝奇」、明治大学高麗大学校学術交流行事、於ソウル・高麗大学校、2010 年 8 月 23 日

〔図書〕（計１３件）

① 袴田光康、「藤壺と法華八講—「竜女」の行くへ—」、小嶋菜温子・倉田実編『王朝びとの生活誌』、森話社、2013 年 3 月 pp. 323— 344

② 袴田光康、「生誕—方法としての産養—」、小嶋菜温子・長谷川範彰編『源氏物語と儀礼』、武蔵野書院、2012 年 10 月、pp. 21—45

③ 日向一雅、「紅葉賀巻「鄂州にありけむ昔の人」と「文君などいひけむ昔の人」」仁平道明編『源氏物語と白氏文集』、新典社、2012 年 5 月、pp. 33—44

④ 日向一雅、『源氏物語　東アジア文化の受容から創造へ』、笠間書院、2012 年 3 月、pp. 1-418

⑤ 袴田光康、「『源氏物語』の須磨—「行平」伝承をめぐって—」、日向一雅編『源氏物語の礎』、青簡舎、2012 年 3 月、pp. 201—224

⑥ 長瀬由美、「菅原文時「封事三箇条」について—『源氏物語』以前のひとつの文学—」、日向一雅編『源氏物語の礎』、青簡舎、2012 年 3 月、pp. 129—150

⑦ 日向一雅、「源氏物語「蛍」巻の物語論をめぐって」、日向一雅編『源氏物語の礎』青簡舎、2012 年 3 月、pp. 249―269

⑧ 日向一雅、「明石の君の物語と『鶯鶯伝』」、日向一雅編『源氏物語と唐代伝奇』青簡舎、2012 年 2 月、pp. 174―205

⑨ 日向一雅、「平安文学の自然表現をめぐって」紫式部学会編『源氏物語の環境　研究と資料』、武蔵野書院、2011 年 11 月、pp. 11―34

⑩ 日向一雅、「大内裏」、小町谷照彦・倉田実編『王朝文学文化歴史大事典』、笠間書院、2011 年 11 月、pp. 20―39

⑪ 袴田光康、「光源氏の流離と天神信仰―「須磨」・「明石」巻における道真伝承―」、秋澤亙・袴田光康編『源氏物語を考える―越境の時空』、武蔵野書院、2011 年 11 月、pp. 85―119

⑫ 日向一雅、「源氏物語の王権と年中行事―「朝賀」と「騎馬打毬」の世界―」石川日出志・吉村武彦・日向一雅編『交響する古代』東京堂出版、2011 年 3 月、pp. 414―437

⑬ 日向一雅、「源氏物語の音楽―宮中と貴族の生活の中の音楽」、日向一雅編『源氏物語と音楽』青簡舎、2011 年 2 月、pp. 214―248

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

① 長瀬由美、「書評　金原理著『日本の古典と漢文学 ―和歌と漢文学・類書・大宰府と道真 他―』」、『日本文学』第 60 号、2010 年 6 月、pp. 56―57

② 日向一雅、「源氏物語を楽しむ」『ラジオ深夜便歴史に親しむ【特選集】』NHK サービスセンター、2011 年 1 月、pp. 17―29

③ 日向一雅、「書評　福長進著『歴史物語の創造』」、日本文学協会『日本文学』711、2012 年 9 月、pp. 64―65

④ 長瀬由美、「書評　天野紀代子著『源氏物語　仮名ぶみの熟成』」、『国語と国文学』2013 年 4 月、pp. 70-74

６．研究組織
(1)研究代表者
日向　一雅（HINATA　KAZUMASA）
明治大学・研究・知財戦略機構・客員研究員
研究者番号：９００７９４２６

(2)研究分担者
袴田　光康（HAKAMADA　MITSUYASU）
静岡大学・人文社会科学部・准教授
研究者番号：９０５５２７２９

長瀬　由美（NAGASE　YUMI）
都留文科大学・文学部・准教授
研究者番号：２０５５３３２４

(3)連携研究者